

令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援

補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

Edv Future株式会社

【サービス名称】

生きる力を育む成長型支援サービス
Edv Path

【サービスの機能分類】

区分A-1 メインサービス

2024年1月

Edu Future

GOOD DESIGN AWARD
2022年度受賞

46,000
年間アカウント数
©2022年
7月現在

日本全国の中学・高校・自治体で導入！
学年や部活単位でも活用できます。



「生きる」力を育む成長型支援サービス

Edu Path

EduPath 教育効果の見える化で、エビデンスに基づいた探究学習を

「非認知能力(ポテンシャルティ)」に着目し、生徒一人ひとりの非認知能力を可視化・数値化したのち、データとして蓄積。生徒の成長支援を行い、学習意欲を向上させるための最適なカリキュラムとコーチングを提案することで生徒個々の特性や進度に応じた、包摂的かつ公平で質の高い学びを支援します。



ポイント1: 見えない学力の測定

能力を育成する教育プログラム
クラス授業で利用する教材と
個々のコーチングプラン



指導案/プリント/スライド/回答例を提供。
教師の準備時間を大幅削減。



生徒の能力を効率的に育成するための最適な教材を実施。探究学習の土台作りを実施することで生徒の個性を活かすための環境づくりが可能に。

ポイント2: 能力育成プログラム

見えない学力の測定
生徒のアンケート回答をもとに、
9つの項目で分析



回答時間：10分程度
設問数：実施する測定項目によって異なります。

測定結果は即時反映。
Edv Pathのアカウント上や個別レポートとして結果を確認。
生徒自身の特性や個性を一目で把握し、探究を通じた効果をEdv Pathが分析！



■ 本事業における教育機関の課題

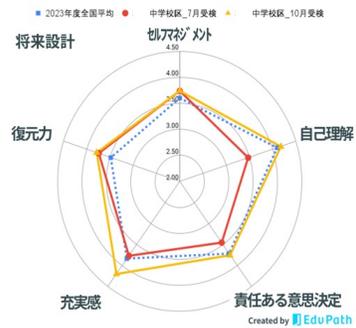
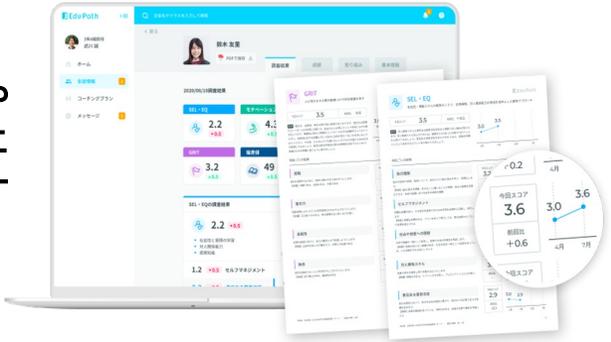


生徒の非認知能力の変容を可視化することで
エビデンスに基づいたより効果的な探究学習を実現

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

■ 本事業におけるEdv Path活用事例

スクールポリシーや設定した資質能力に合わせて再分析をサポート担当が実施



振り返りと分析
 プログラムによってどのような変容が起きているか分析
 課題となっている項目を発見し
 次回アクションに繋げる

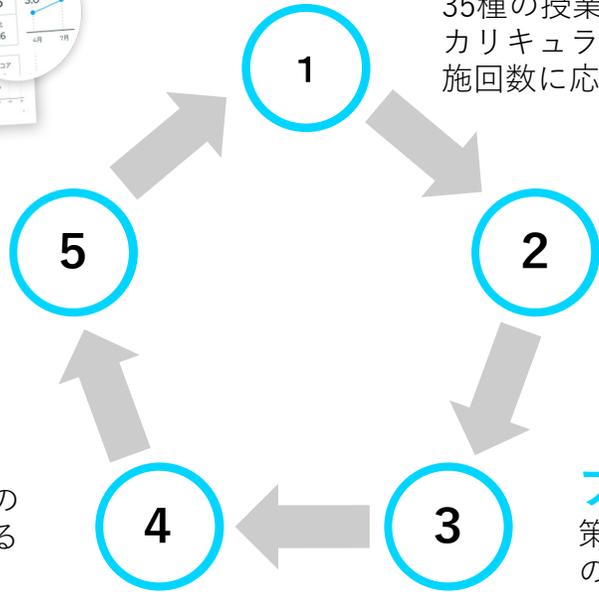
生徒の変化を把握
 アセスメントを受検し、生徒の非認知能力の変化を可視化する

再びアセスメントを実施することで...
☆生徒が成長を実感
 +
☆教員の教育効果の実感



シラバスの策定支援

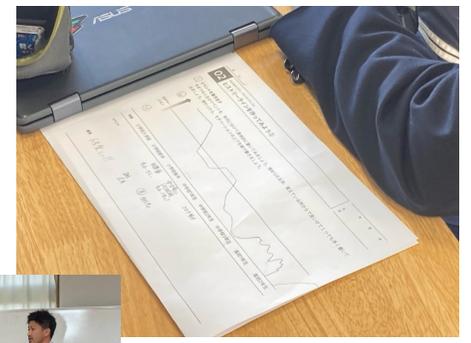
35種の授業コンテンツから学校のカリキュラムポリシーや年間の実施回数に応じてシラバスを策定



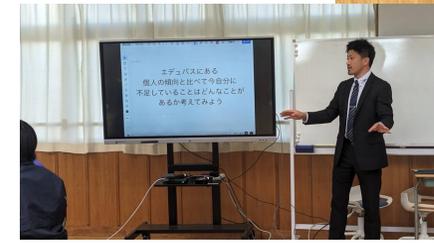
生徒の現状を把握
 所要時間5分~のアセスメントを受検し、生徒の非認知能力の現在地点を可視化する



プログラムを実施
 策定したシラバスに沿って、探究の授業を実施
 授業資料はEdv Pathから取得！

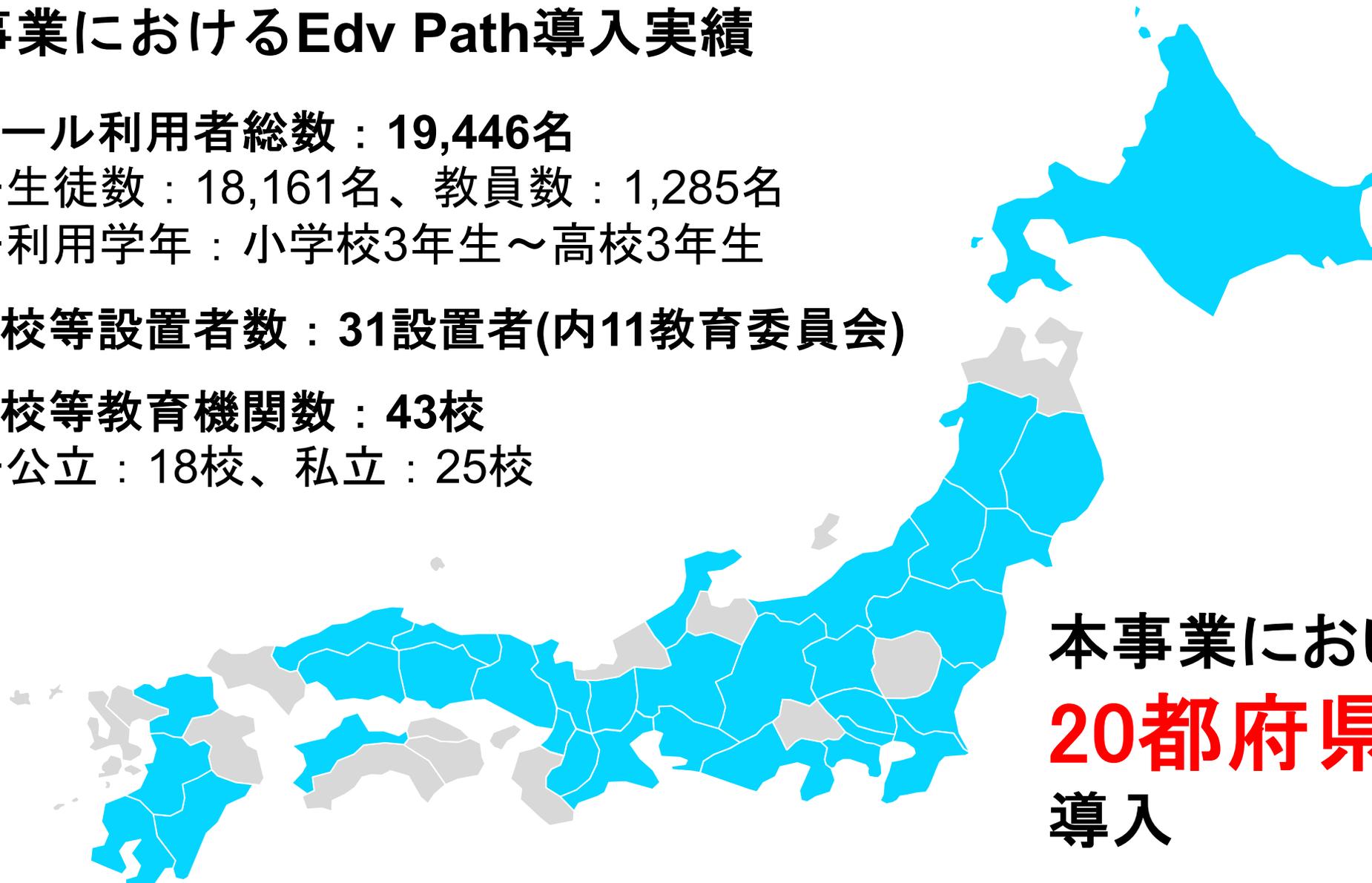


番号	コンテンツ名	概要	補助教材/プリント
#1	オリエンテーション (Assessment)	SEL/EQ/GRITに関するオリエンテーションを行った後、生徒個人が自分自身の非認知能力をどのように理解しているかをプリントに書き出す。その後、非認知能力を測定するアンケートを実施する。	
#2	アセスメント結果の振り返り(通常版)	アンケート調査の結果を基に、生徒個人が自身のSEL/EQ/GRITの強み/弱みを確認する。また、向上タイミングを参考にこれから意識すべきことや行動指針について自分なりに考察する。	EdvPathコンピテンシーレポート
#3	アセスメント結果の振り返り(ストーリーライン版)	アンケート調査の結果を基に、生徒個人が自身のSEL/EQ/GRITの強み/弱みを確認する。また、ストーリーラインと照らし合わせ、強み/弱みが生まれたライフイベントを把握する。	EdvPathコンピテンシーレポート
#4	アセスメント結果振り返り(回目以降)	2回目以降のアセスメント調査を行う。アセスメント結果を基に、非認知能力の数値の推移を分析する。また、自分自身の数値の増減を軸にしながら振り返りを実施し、今後の行動指針や意識することを策定する。	EdvPathコンピテンシーレポート
#5	ストーリーラインを作ってみよう	自分自身の人生の転機や没頭したことについて考える。ストーリーラインのフレームワークを活用することで、生徒個人がこれまでの人生を振り返り、自己形成のタイミングや感情の転換点を把握することを旨とする。	



■ 本事業におけるEdv Path導入実績

- ツール利用者総数：19,446名
 - 生徒数：18,161名、教員数：1,285名
 - 利用学年：小学校3年生～高校3年生
- 学校等設置者数：31設置者(内11教育委員会)
- 学校等教育機関数：43校
 - 公立：18校、私立：25校



本事業において
20都府県の学校へ
導入

■本事業におけるEdv Path活用効果

○生徒の探究リフレクション会

▼リフレクション会の概要

狙い：生徒がEdv Pathのアセスメント結果を見ることを通じて、

探究学習での自分自身の取り組みや活動の振り返りの時間にする

時期：2学期中間

▼リフレクション会の内容

1. これからの時代に大切な「**非認知能力**」とは？
2. Edv Pathで見れる非認知能力を知ろう
3. 結果の確認と振り返り
 1. まずは結果を見てみましょう
 2. **なぜこの結果になっているのか背景を考えてみましょう**
 3. 残りの2学期に頑張りたいことを考えてみましょう
4. **2学期に頑張っていきたいことの宣誓**（匿名アンケート、slido使用）

▼リフレクション会の様子



■ 本事業におけるEdv Path活用効果

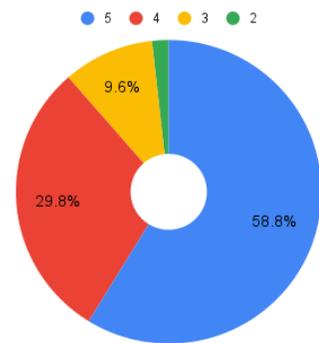
○生徒の探究リフレクション会

▼生徒による2学期の宣誓（一部抜粋）

- ・自分の人間性の弱点を把握できた。**対人関係が苦手というのが自意識の中で合致した。もっと人と話して経験を積みたい**（2年生男子生徒）
- ・定期的に行うことで前回からの変化も目に見えて面白いし、**次何やってみようとかの見込みができるからいいな**と思う。このサイトを参考に新しいことにも挑戦してみようという気持ちになった。（2年生女子生徒）
- ・**非認知能力という能力は生きる上でこれから必要になってくる能力**なので、今自分の能力を維持しつつ、向上していこうと思いました。（1年生男子生徒）
- ・自分の伸びしろが何かを理解することができ、**今後どんな行動をすべきなのかを考えるきっかけ**になりました。（1年生女子生徒）

▼生徒の反応

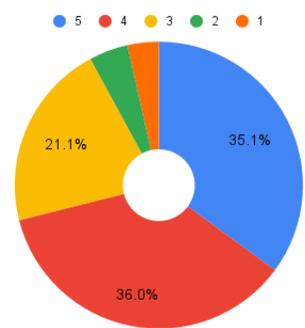
自己理解が深まるか？



88.6%(101名/114名)の生徒が「Edv Pathの結果を活用することで自分への理解が深まった」と回答

71.1%(81名/114名)の生徒が「今後もEdv Pathを使っていきたい」と回答

継続的に使いたいか？



■ 本事業におけるEdv Path活用効果

○ 探究学習に対する意識づけをするために

▼ 研修会の概要

狙い：教職員が探究学習を実施する際に意識したい

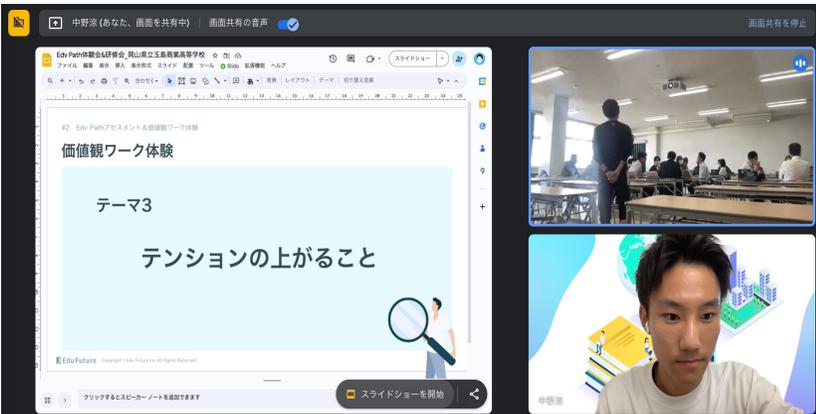
「**心理的安全性**」の大切さについて教職員が体験しながら学習する

時期：2学期中間

▼ 研修会の内容

1. 心理的安全性とは？
2. Edv Path**簡易アセスメントの体験**Ⅰ ワーク実施前
3. 先生方による**価値観ワークの体験**
4. Edv Path**簡易アセスメントの体験**Ⅱ ワーク実施後
5. 自身の変容のチェック
6. 心理的安全性を担保することの大切さ

▼ 研修会の様子



■本事業におけるEdv Path活用効果

○探究学習の効果測定

▼探究学習の概要

狙い：校区で実施している生活科（小学校）と

総合的な学習の時間（中学校）の**授業実践を通じた児童生徒の変容把握**

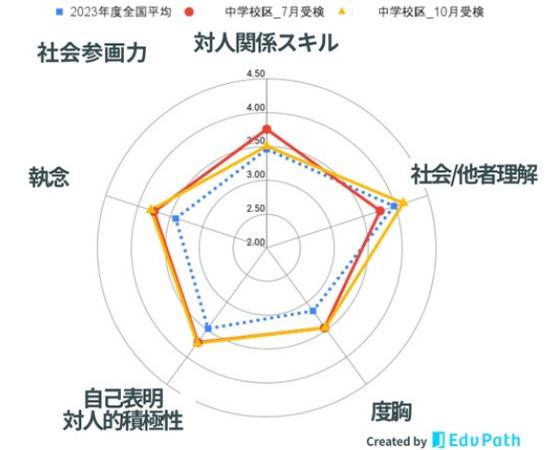
測定指標：校区で設定した資質能力とEdv Pathの項目を紐付けて実施

比較時期：1学期終わり（7月下旬頃）と2学期中間（10月上旬）

▼活用方法

1. **学校運営協議会での会議資料として提示**し、エビデンスをもとに児童生徒についての議論や次の取り組みの方針の見直しなどを実施
2. 研究指定校の**報告書にエビデンスとして掲載**
3. 公開授業時の学習指導案内で「**特筆すべき児童生徒の様子**」に現在の児童生徒の状態として掲載し所見を記載

校区で設定した資質能力を軸に再分析



■ Edv Path導入及び運用における課題

◇ 課題

〈導入面〉

- ・ 現状ウェブサイトのみでの運営になっており、インターネット環境下でなければ動作/運用ができない。
- ・ 情報セキュリティ認証未取得

〈運用面〉

- ・ 導入校におけるサイトビュー率の割合が低い
- ・ 学校内でアセスメント実施から測定後のアプローチまで独自で実施できていない
- ・ ログイン情報を紛失してしまう生徒が多く、Edv Pathへのアクセスが遠のいてしまっている

◇ 解決に向けて

1. Edv Path全体のUI/UX改善を行い、これまで以上に使いやすいデザインへ改善させる。
2. より高度な情報セキュリティの体制を整え、認証制度として「ISO27001」を取得する。
3. ログイン認証の方法として、MicrosoftアカウントでのSSO認証を実装する。
4. 教員研修会にて、学年やクラスごとに探究学習や児童生徒に対して議論できる時間や機会を増やす。

■ Edv Path利用前後の児童/生徒/教職員のコメント

◇ 教職員からのコメント（一部掲載）

探究の取り組みを実施しているが、本当に生徒のためになっているのかは分からなかった。なんとなく効果はありそうだけど…という感情を、Edv Pathによって変容が確かなものとして出てきてくれて、教員の自己肯定感も向上しました。（私立高等学校 探究主任/3年生担任）

年度末の要録作成、特に総合所見や探究の時間の評価を記載するのに時間がかかってしまっていました。しかし、Edv Pathの結果と実際の活動内容から参考文章が出てくるので、作成時間が半減しすごく助かりました。（公立高等学校 探究主任/1年生担任）

学校・学級経営は学力向上に影響するといわれています。だからこそ、学習効果を見える化することで探究の取り組みを改善させ、学校全体・クラス経営が良好になり、生徒の変容に繋がっています！（公立高等学校 教頭）

今までは教員の各々の経験や勘で生徒の状況を把握していたため、教員間でも齟齬が生まれる事に悩んでいました。Edv Pathを導入し「共通言語化」されたことで、コミュニケーションにかかる時間が一段と下がりました。（私立高等学校 探究委員会会長）



■ Edv Path利用前後の児童/生徒/教職員のコメント

◇ 生徒からのコメント（一部掲載）

- 今日の授業を通して、自分のことをしっかり知るといふことの大切さを学べた。また、自分の変化についても今後、気にしていきたいと思った。
- 今回の授業でアセスメントの意味もしれたし、自分の弱点もしれたのでこれからはこれを活用して自分を理解して少しでもなりたい自分に近づいていけたら良いなと思った。多くのアセスメントを通して、現状の自分の状態と向き合うことは今後の自分のあり方や行動の仕方についても深く関係してくるものだと知った。
- 今回の1,2回目のアセスメントをもとに自分が何になるためにどう行動していくのか自分で考えるという意識を持つことができた。
- 今自分が持っている非認知能力を維持しつつ、向上していきたいと思いました。
- 自分についてアセスメントを通して知ることができた。自分の強みや伸びしろがわかったので活かして更に成長していきたいです。
- 大学や就職で求められるスキルは勉強と同じで一気に上達しないと分かったのでこれから高めていきたいと思いました。
- 今まで、あまり自分のことについて積極的に知ろうとしていなかったため、今回の講演を通してしっかりと自分を見つめることは社会で生活する上で必要なものなんだと実感しました。これから結果と向き合って自分のことをさらに伸ばしていきたいです。

Edu Future

MISSION

未来ある子供たちの情報格差をなくして、
自ら意思決定できる人を増やす



ご不明点・ご質問などございましたら
お気軽にお問い合わせください。

会社名 Edv Future株式会社（エデュフューチャー）

取締役 代表取締役 山崎 泰正
取締役 橋本 竜平

設立日 2019年12月2日

資本金 300万円

本社 所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-11-7
第33宮庭ビル 5階

従業員 10名（役員・インターン・業務委託含む）

メール：support@edufuture.co.jp

電話番号：050-5373-1252

会社HP：<https://edufuture.co.jp/>

